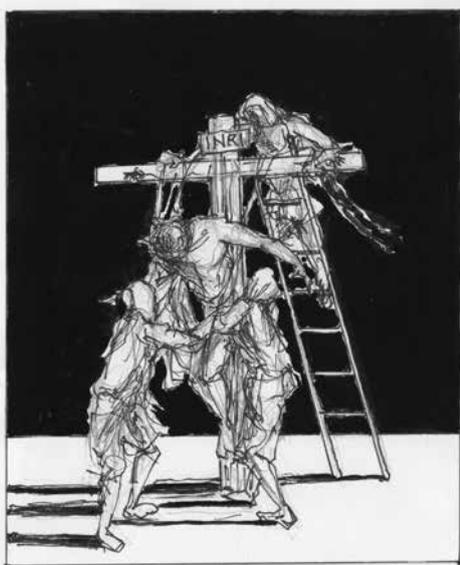


# 雷の子

カトリック町田教会  
町田市中町 3-2-1  
電話 042-722-4504  
FAX 042-722-4512

## いかずちの子

<http://www.machida-catholic.jp/>



アリマタヤ出身のヨセフはイエズスの体の下げ渡しを願い出た。

(ルカ23-50)

## 人間スゴイ、神様スゴイ

主任司祭 林 正人

先日、雑談の中で、今日の若者は腕時計をしないとの話が出ました。何故と問えば、スマートフォンで時刻は確認できるから、ことさら腕時計を巻かなくてもよいとのこと。確かに、スマホの画面を覗き込んでいれば、腕時計に目を移さなくとも時刻確認はできる訳で、所謂「歩きスマホ」をしている連中は、のべつ幕無しに時刻を確認していると言えなくもありません。私は、スマホ画面を見る時

間があつたら本を読みたい性質なので、歩きスマホは言うにおよばず、普段も余りスマホを（少なくとも若者のように）手に取りません。ただ、時刻は腕時計で頻繁に確認します。およそ司祭という人間共は皆、時刻に敏感です（多分）。日頃のミサ開始は勿論、学校や幼稚園に行く時刻、病床訪問や納骨式の約束等々、待っている方々を待ちぼうけにさせる訳にはいきません。故に、腕時計は私に

とって、欠くことのできないアイテムなのです。ところで、腕時計には大きく分けて「機械式」と「クォーツ式」がありますが、クォーツを使った腕時計の販売第一号が日本製であることはご存知でしょうか。それまで、筆筒のようなドデカイシロモノであつたクォーツ時計を、腕時計として初めて世に送り出したのは、我が日本のセイコー社でした。「さすが日本！スゴイデスネー！」と唸って：ふと：思ったことがあります。最近、テレビでも雑誌でも、「日本スゴイ」という言葉をよく目にします。人間は皆、自分の生まれ育った国を愛しているでしょうし、世界に誇れる文化や品があれば自慢したくもなります。しかし、最近の「日本スゴイ」の風潮は、いささか趣を異にしているような気がするのです。例えば、某テレビ番組では、外国の方に「コレスゴイ。ワタシノクニニハナイ。ニッポンスゴイ！」と叫ばせたりしている。そこに、何か違和感を覚えるのは、私だけでしょうか。他にも、「池の水を抜いてキレイにする」という番組がありますよね。そこで見つかった魚を見つづ、「在来種を守ろう！ 外来種を駆除しよう！」等と叫んでいる。気

持ちは分からんでもないのですが、うーん、外来種を「駆除」ねえ…。どうも昨今の「日本スゴイ」の中には、「あの国と比べて。奴等と比べて」という感情が雑じっているような気がしてなりません。形を変えた「ヘイト」ではないか：なんて言ったら怒られますかね。人は、自らが優れていることを知るために、しばしば「他者との比較」を行います。しかし、それは多くの場合、他者を貶めることにつながります。更にそれは、人間一人ひとりに固有の「良さ」を与える、神様を侮蔑することに

## わたしの器で

運営委員会 議長 名倉 理恵

一年前、議長の役が回ってきた時、私はちょうど50歳。教会では先輩の皆様から「若い人」と言っていたら喜んでおられますが、リアルなヤングではありませんので元氣いっぱい毎日はいきません。それでもこの一年は役割があつたからなのか、おかげさまでそこそこ元氣に過ごすことができました。2019年度が始まった当初は「私も何かしなくては！」と少々気負っていたかもしれせん。しかしながら、人にはそれぞれの器というものがあり、私には自分ができるところをしようと思ふようになりました。心がけたのはシンプルにやること、即ちやりすぎない、難しく考えないこと。教会の年間行事予定に従って、一年が滞りなく回れば問題なし！ということにしました。そして敢えて活動内容を広げず、仕事を増やさず、運営委員会主催での新規のイベントも企画しませんでした。よって時間と心に余裕を持つことができ、楽しみながら担当する仕事に取り組むことができました。

なりはしないでしょうか。福音書には、イエス様の行う神の業を「ベルゼブルの力」と流言する律法学者たちが登場します。自分に無い「良さ」を嫉み、何とか自分の優位を保持しようとするあまり、相手を「悪」と決めつける。その時、自分こそ悪魔に囚われているのでしょうか。好き嫌いはいざ知らず、あの人は「素晴らしい」。私も「素晴らしい」。何故なら、総ての人間を造られた天の神様が素晴らしいのですから。「人間スゴイ！」「神様スゴイ！」。皆が一つになりますように。

## 2020年 町田教会の主な年間行事予定

- 1月1日(水) 新年のミサ  
12日(日) 新成人祝福式・新年会  
2月16日(日) 町田教会信者総会  
29日(土) 四旬節黙想会(英語:ネルソン神父・神言修道会)  
3月8日(日) 四旬節黙想会(酒井俊弘司教・大阪大司教区)  
28日(土)・29日(日) ゆるしの秘跡  
(聴罪司祭 稲川圭三神父/ガブンディ・オノレ神父)  
4月9日(木) 聖木曜日(主の晩餐の夕べのミサ)  
10日(金) 聖金曜日(主の受難の祭儀)  
11日(土) 聖土曜日(復活徹夜祭)  
12日(日) 復活の主日・復活祭パーティー  
5月17日(日) 堅信式(菊地功大司教 司式)  
6月14日(日) 初聖体  
7月下旬 夏期学校  
8月15日(土) 聖母の被昇天のミサ  
10月25日(日) 長寿感謝の集い(ミサ・茶話会)  
11月8日(日) 町田教会合同追悼ミサ・カトリック府中墓地合同墓参  
15日(日) 七五三祝福式  
28日(土) 待降節黙想会(英語:ディンド神父・神言修道会)  
(日程未定) 待降節黙想会  
(日程未定) ゆるしの秘跡(聴罪司祭 未定)  
12月24日(木) 主の降誕(夜半のミサ)  
25日(金) 主の降誕(日中のミサ)

さて運営委員会は毎月一、二時間の会議を開いています。会議の二時間はあつという間に過ぎてしまうので、私は議長としてシンプルな進行に努めました。幸い、元よりメンバーの皆様が確実に役割を果たしてくださっていましたので、各委員会・各担当の調整は円滑に進みました。また活動内容を広げなかつた分だけ議案を絞れたこともあり、会議が長引くことはありませんでした。もちろん予想外のことは起きるもので、早急な対応が必要な時もありましたが、メンバーの皆様と共に考え、その時々により最善と思うことを行いました。

この度の信者総会をもちまして、私は運営委員会卒業となり、運営委員は大変だと思われがちですが、当然のことながら一人でやるわけではないので、必ずしも大変ではありません。私は活動を通して皆さんの思いがけない恩恵にあずかりました。二年前声をかけていただいてラッキーだったと思つていますが、リアルなヤングはもろろん、どなたにも関心をもちたいだけならうれいす。最後にになりましたが、教会の皆様には温かいご支援とご協力を賜り、感謝の気持ちでいっぱいです。どうもありがとうございました。

## 信仰の出発点

生涯養成委員 林 佳香

昨年十二月十五日(日)、雨宮神父様ご指導で、「信仰の出発点」をテーマに待降節黙想会が行われました。

ミサでは「『信仰には行いも大切』と言いますが、私はパウロの言う『信仰のみ』に近いので、方向違いの行いに励むことのないように」と、ここにこと、でもきつぱりとお話しになりました。

続く黙想会の講話では、天使がザカリアに、エリザベトが男の子を産むことを告げた際のザカリアの答えと、天使ガブリエルがマリアに、救い主の母になることを告げた際のマリアの答えを比較されました。

ザカリアは「何によってわたしはそれを知ることが出来るでしょうか」と「わたし」を主語に答えたのに対し、マリアは「どうしてそのようなことがありえましょうか」「(そのことが)お言葉どおり成りますように」と、これから起きる神の計画を主語に答えたことから、マリアの答えはマリアの信仰の表れ、喜びと信頼に満ちた希望の表明であり、マリアのこの信仰から、罪から解放する神の支配が始

まった、と結ばれました。

ミサのお説教と講話を通じて、信仰が自分の軸になっていけば、マリアのように、こどもも立ち居振る舞い、つまり自分から出るすべてが、自ずと信仰を表すものとなる、ということがよくわかりました。これまで「神様の喜ばれることを」とか、「こういうことは信者らしくないかな」など、行いをあれこれ考えた

りしますが、それはまったくの見当違いで、そんなことを考える暇があつたら、しっかりと信を持つことのみを自分に課すべきだということに、今さらながら気づいた次第です。

学生の頃、神父様の講義を聴く機会がありました。思い出してみると、神父様は「先生が生徒に説明する」のではなく、「私の信じる神様のことを、同じ信仰を持つあなたたちに伝える」という印象でした。神父様はいつも笑顔で喜びに満ちておられ、お声は生き生きと、ぐいぐい迫るほど力強いものでした。それは神父様の神様への信頼ゆえだったからだと思ひたりしました。

中村哲医師をしのんで  
JOCSS町田カトリック 原 久子

昨年十二月四日、ペシャワール会の中村哲医師がアフガニスタンで凶弾に倒れ亡くなられました。

中村医師がJOCSS(日本キリスト教海外医療協力会)から1984年〜1990年「ペシャワール・ミッション病院」に派遣されたこと、ご自身がパプテスト教会員であつたことはあまり知られていません。

中村医師は、「ネパールのひげドクター」岩村昇医師の話を聴き、JOCSSの呼びかけに応じペシャワールに赴任されました。JOCSSワーカーには、その出身母体の教会、同窓生、友人などを中心に「支える会」が結成され、「支える会」は僻地に派遣されるワーカーを物心両面から支えます。JOCSSワーカー・中村医師のために結成された「支える会」が「ペシャワール会」でした(1983年9月発足)。

ペシャワール・ミッション病院では、ハンセン病診療を中心に患者用のサンダル工房など、地道な仕事を積み上げられました。ペシャワールは、パキスタン北西辺境州に位置し、国境を越えてくるアフガニスタン難民が多く、その実情に心を痛めた中村医師は、JOCSS

の枠を超えて戦乱のアフガニスタンへと、JOCsを離れて医療協力を進められました。2000年に襲った未曾有の大干ばつ以来、水を求め井戸を掘り「100の診療所より1本の水路を」と、不毛の地を3000ヘクタールの緑地として蘇らせ何万人もの命を救われました。

中村医師は、西南学院中学3年生の時、バプテスト教会で受洗され、内村鑑三の『後世への最大遺物』に大きな影響を受け「キリスト教との出会いが、ペシャワール赴任もアフガニスタンでの活動も可能にした。特にマタイ伝の『山上の垂訓』を暗記するほどに読んだ(『天、共にあり』より)」と述べておられます。

イスラム社会の中においてイスラムの人々と共に歩み「人は愛するに足り真心は信ずるに足る」(澤地久枝との対談より)と、「戦場のような地域に身を置きながら……(真の平和は)武器によらず、命がけの愛によって前進する」(JCM A II日本キリスト者医科連盟II石川信克氏追悼文より抜粋)ことを示されました。

私たちも一人一人が平和のために何ができるか、問われています。中村医師が最初に関われたJOCs。その切手活動をこれからも一枚一枚

思いを込めて行い、中村先生の意思を継いで歩まれるペシャワール会の上に天からの大きな支えと慰めがあらんことを祈ります。

### ヨゼフ会二〇二〇年新年会

田澤 三郎

一月二十六日(日)午後一時半、三十七名参加でヨゼフ会二〇二〇年新年会は始まりました。今回は六・三キログラムのすき焼き用和牛霜降り肉と野菜などの具とビール・ワイン・ノンアルコールビールなどを用意しました。またワイン・日本酒・葱・苺などの差し入れがありました。

すき焼き鍋を囲むヨゼフ会「新年会」は参加者の会費と差し入れて運営されて、四十年以上前から続けられているカトリック町田教会の伝統行事の一つです。今年も例年同様すき焼きは大変好評でした。終わってみるとお肉とその他の具材は全て完食でした。

会の冒頭に林神父様と坂井幹事からの挨拶があり、乾杯と続きました。八個の鍋をそれぞれ四〜五名で囲み、鍋奉行が中心になって皆ですき焼きを作りました。大勢で鍋を囲みながら食べるすき焼きは格別で元気が湧いてきます。宴たけなわとなったところで進行係から指名を受けた

方々のスピーチがありました。今回話をされたのは比較的年長者の方々で、話の内容は自己紹介、半世紀以上前のいろいろな思い出話、昔のヨゼフ会新年会の様子、先輩から後輩へのエールなど、大変貴重なお話もあり、とても有意義な時間を持てたことをうれしく思います。

このような場面になると昔の新年会の記憶が蘇り、今と同じように何年も前の亡き先輩方と過ごした新年会の一コマが偲ばれます。ふと気がつく和二時間余りの時間は、あつという間に過ぎてお開きの時間となりました。いつも

の通り万歳三唱で締め、記念写真撮影、お片付けを全員で行って無事終わりました。ゲストとして林神父様、星野神学生、シスター吉村には快くご参加頂きました。また、多数の方々にお忙しいお時間をやり繰りして参加頂きかつ色々な形でご協力頂き、本当に有難うございました。

【編集 写真は四面に掲載】

### 犠牲献金

中高生会

12月1日 10,833円

(ベロニカ苑へ)

1月12日 5,355円

(ベロニカ苑へ)

### 特別 奇稿

### 聖書を読む習慣

キリスト者であれば、私たち各自の家には、必ず聖書を持っています。が、自分に問うてみてください。最近、どれほど私は聖書を本棚から取って開いたでしょうか。聖書を、特に旧約聖書を読んだ「つまらないな」とか「難しいな」と思ったことはないでしょうか。そして、ある箇所が理解できなかつたという理由で聖書を読むことを諦めてしまった信者は多数です。

聖書の中には「宝」が隠してあります。それを見つげるために聖書を読む習慣を身に着ける必要があります。理解しにくい箇所につづかつて諦めないのは「宝を

渾心会司祭 オノレ・カフンディ

見つけるための秘密」なのです。もし広い畑に宝物が隠してあると言われましたら、私はその畑の隅々を深く掘り返してその宝を探しつづけると思います。

私自身が聖書と親しむことができたのは小学校の頃からでした。家庭では祈ることや聖書を読む習慣がありました。一日に必ず聖書の一箇所を読んでいた。理解しなくても心掛けて読んでいました。成長するにつれて聖書が語る意味を少しずつ悟ることができました。

皆さんも、一日に聖書の一箇所を読む習慣を始めませんか。



# 図書紹介

2016年2月以降に登録された本の抜粋です。

図書係 横塚 千枝子

殉教者—ペトロ岐部カスイ 加賀乙彦  
 わたしの靈魂における神のいつくしみ  
 —聖ファウスティナの日記 ユリアン・ルジッキ  
 アシジの聖フランシスコ 影絵と文 藤城清治  
 キリスト教とは何か①～⑩ 粕谷甲一  
 キリストの横顔 ペトロ・アルペ  
 人生の北極星 小林敬三説教集  
 聖書の情景 ギュスターヴ・ドレ  
 長谷川路可画文集 長谷川路可  
 ザビエルに続く宣教師たち—神父さま なぜ日本に？  
 女子パウロ会編 来住英俊  
 気合の入ったキリスト教入門  
 | 根本問題をつかめ II イエスの登場  
 教皇フランシスコのことは365  
 マルコ・パッパラルド編 太田綾子訳  
 教皇フランシスコ回勅—信仰の光 / ラウダート・シ  
 教皇フランシスコ使徒的勸告—福音の喜び / 愛の喜び  
 / 喜びに喜べ

教皇フランシスコ講話集—ミサ・洗礼・堅信  
 神の呼びかけを聴いて—12人のシスターの手記  
 聖パウロ女子修道会会員  
 カトリックの教え—新カテキズムのまとめ  
 ドミニコ会研究所編  
 根っこと翼—皇后美智子さまという存在の輝き  
 末盛千枝子  
 そのとき風が吹いた—ドク神父となかまたちの冒険  
 ニューロック木綿子漫画  
 待ち望むということ ヘンリー・ナウエン  
 ほんとうの自分になるために  
 —マザー・テレサに導びかれて 片桐弘史(文)  
 RIE(絵)  
 ローマ教皇庁の歴史—古代からルネッサンスまで  
 B. シンメルペニッチ  
 解説・教会法—信仰を豊かに生きるために  
 ルイージ・サバレーゼ著 田中昇訳  
 食べて味わう聖書の話 山口里子



ヨゼフ会新年会 (3面の記事参照)



外国人クリスマス会 (12月22日: 実は参加者90人!)

## 信者動静

2019年9月～2020年1月

(個人情報のため、削除しています)



クリスマスお泊まり会  
(12月15～16日)

ケーキ作り、ゆるしの秘跡、プレゼント交換、ツリー飾りつけ、ミサと、多彩なプログラムを楽しみました。